



在阪の著名人による安保3文書撤回要請

—「専守防衛」をかなぐり捨てた「敵基地攻撃能力」保有の安保3文書を撤回し、憲法の平和主義守り軍事費増額より暮らし守る予算を求めます

2023年1月14日

岸田内閣は12月16日に「国家安全保障戦略」など安保関連3文書を閣議決定しました。国会での議論もなく、国民へのまともな説明も一切なく戦後の安全保障政策を大転換させようとしています。これは、2014年7月安倍内閣による集団的自衛権の容認を閣議決定したことから、さらに具体的に踏み込み憲法の平和主義を踏みこむものです。2015年3月、安倍内閣時代に「専守防衛」の定義として「相手からの武力攻撃を受けたとき初めて防衛力を行使し、その態様も自衛のための必要最小限にとどめ」としていまは12月20日の記者会見で「他国が我が国に対して武力攻撃に着手した時」と述べ「着手」の判断を間違えれば、先制攻撃の国際法違反にもなる全面戦争に日本が突入する危険性があります。さらに、安保法制に基づく集団的自衛権行使による敵基地攻撃であれば、他国の戦争に日本が巻き込まれてしまいます。これは、第2次世界大戦の尊厳犠牲のもとで日本国憲法が生まれ憲法9条による「専守防衛」

「平和主義」を国是としてきた日本の安保政策の大転換です。

岸田政権は12月23日に2023年度当初予算案を閣議決定しました。それは先の安保3文書に基づき軍事費増額予算は10・2兆円となり歳出増加額7兆円の7割が軍事費増額に充てられる大軍拡予算となっています。相次ぐ値上げやコロナ禍による生活危機を顧みることなく、軍事費を2027年度にはGDP比2%43兆円に向けてひた走る第一歩です。こうした岸田政権の動きは、憲法蹂躪、国民生活破壊にとどまらず東アジアにおける軍事的緊張を激化させることは必至です。私たちは、安保3文書の閣議決定に撤回すること。軍事ではなく外交による東アジアの緊張緩和と平和を創出すること。国民生活を守る予算を確保すること。以上3点での府民的な運動をよびかけます。

【よびかけ人(アイウエオ順)】

- 伊地知紀子 (大阪公立大学教授)
- 川崎三榮子 (医師・大阪府保険医協会副理事長)
- 桜田照雄 (阪南大学教授)
- 杉本和 (新日本婦人の会大阪府本部会長)
- 富田宏治 (関西学院大学教授)
- 西晃 (弁護士・大阪平和委員会会長)
- 藤永延代 (おおさか市民ネットワーク代表)
- 渡辺武 (元大阪城天守閣館長)

ウクライナ侵略利用の改憲NO

大阪平和委員会事務局長 上羽 治 雄

【ヨーロッパの穀倉】上が大空を表す青、下が麦畑を表す黄色の国旗が示すように、ウクライナは「ヨーロッパの穀倉」「世界で食料危機が起こった場合には、それを救う国のひとつ」「(「物語」ウクライナの歴史―ヨーロッパ最後の大国」中公新書)と書われています。日本国憲法第24条の「男女平等」条項の起草をしたベアテ・シロタ・ゴートンさんの父母はウクライナ出身です。【ロシアのウクライナ侵略】2月24日そのウクライナに対しロシアが国連憲章を無視して侵攻を開始。しかもロシアは、核兵器使用の威嚇を公然とふりかざしてこの戦争をおしすすめています。通常兵器に対する攻撃に対しても核兵器を使用するという「核ドクトリン」を持つプーチン大統領が、戦争開始後に核部隊を戦闘態勢におくことを命じたことは重大です。これは、核兵器禁止条約に違反する、人類に対する脅迫です。加えてロシアの攻撃は、住宅地や学校、病院などへの無差別攻撃や原子力施設への攻撃、残虐兵器使用など、ことごとく国際人道法に違反するものです。一刻も早く中止させ、これ以上の非人道的な被害を阻止することは喫緊の課題です。【国連が非難決議】ロシアの侵略に対し、

世界各国で「国連憲章守れ」の声が急速に広がるなか、国連加盟国の73%、141カ国が賛成したロシア非難決議は、ロシアの行為を国連憲章違反の侵略と断罪し、即時無条件完全撤退を要求しました。かつてのベトナム戦争とイラク戦争に対して国連が非難決議を上げなかったことからすると、歴史の進歩です。ロシアに対する経済制裁も、最惠国待遇の撤廃や国際決済システムからのロシア大手銀行の排除など、各国が厳しい措置を打ち出し、ロシアの孤立は深まるばかりです。ロシア国内でも厳しい言論統制と弾圧にもかかわらず勇気ある反戦行動がくり広げられています。スイス・ジュネーブ国連機関の外交官ボリス・ボンタレフ氏は「血まみれで、無分別の戦争に抗議する」「すでに何千人ものロシア人とウクライナ人が死んでいる」と抗議し辞職しました。【抗議行動を展開】大阪平和委員会はいち早く府民に呼びかけ、2月28日豊中市内にあるロシア総領事館前で「ウクライナに平和を」の横断幕をかかげ120人の参加で抗議のスタンディングを実施し、ロシア軍の攻撃で亡くなったウクライナの人々に黙祷を捧げました。これはマスコミでも報道されました。この後も毎月5次にわたり5人〜8人の参加者でスタンディングを実施しました。さらに、5月22日には大阪革新懇と一緒に3名の在阪の学者を招いて「平和外交シン

ポ」を119名の参加で成功させ、そこで寄せられたウクライナ支援カンパ6万円を国際赤字委員会(ICRC)に寄付しました。【惨事便乗の大軍拡】岸田内閣はロシアのウクライナ侵略に対し、憲法9条をもつ戦争被爆国として「核兵器を使うな」「紛争の平和的解決を」の声をあげるところか、その補完勢力の維新の会などと一緒この事態を利用して、「基地攻撃能力」保有やそのために軍事費大幅増額(従来対GDP比1%程度だった「防衛費」を2%以上に)すると表明しています。これは、明白な憲法9条および国際法違反となる先制攻撃の準備に日本が着手する可能性はらみ、また一貫して「専守防衛」の範囲内で抑制的に安全保障政策を組み立ててきた戦後日本の「平和国家」としてのあり方を根本的に破壊するものであり、断じて認めることはできません。【岸田内閣の打倒を】ウクライナ侵略を前に世論調査では、敵基地攻撃能力の保有に賛成が6割、反対が3割。背景に覇権主義的な動きを強める中国、過去に前例のない頻度で弾道ミサイル発射をしている北朝鮮、国際秩序の根幹を揺るがすロシアの存在があります。ウクライナは兵力を2014年に比べ3倍化しかしロシアはウクライナに侵攻しました。軍拡増税の岸田内閣を打倒し、いのちと暮らし優先、専守防衛の日本に皆で変えて行きましよう。



各地から新年挨拶

2023年新年の抱負 反転攻勢の年に！

大阪平和委員会理事長

近藤 正

おめでとうございます。昨年、念願の「青い星」を上梓しました。故畑田重夫先生をはじめ多くの方々のご協力の賜物です。ご笑覧頂ければ幸いです。

三年におよぶコロナ禍で苦しむ国民の暮らしや経済の再建、外交・安全保障、エネルギーなど国の進路をめぐる重大問題が問われる年になります。春の一斉地方選挙は世直しの政治決戦の場です。

今こそ、平和の出番。旺盛な運動を進めるためには、力強い平和の仲間が必要です。「一歩前進二歩後退」の現状から一日も早く脱し、反転攻勢の年にしようではありませんか。

心ひとつ政治革新遂げる春

正

「子どもたちに平和で希望ある未来を」

東住吉平和委員会副会長

山本のりこ

明けましておめでとうございます。日本は今「戦争か平和か」という歴史的岐路に立っています。岸田政権による「敵基地攻撃能力」の保有と



大軍拡は平和も暮らしも壊す戦争への道。絶対に止めなければなりません。今年は統一地方選挙も行われます。東住吉区から「戦争反対！平和を守ろう！」この声を大きく広げて、誰もが安心して暮らせる平和都市へ。そして子どもたちに平和で希望ある未来を。

成人式宣言

—新成人の願いは 軍事よりも学費援助や子育て支援、少子化対策を希望

天王寺区「二十歳のつどい」は1月8日(日)、12時と15時からの2回に分けて天王寺区民センターで開かれました。成人を祝う天王寺実行委員会では「戦争のない社会を一緒につくろう」と横断幕を持って、新婦人チラシとホカロンを200個配布、シール投票も行いました。シール投票は「税金を何に使ってほしいですか」の問いに(1)学費値下げ(2)子育て支援と少子化対策(3)賃上げと消費税減税(4)軍事費の4項目のうち一番望むことに投票してもらいました。シール投



票や振り袖姿の写真をとったり、男性グループや女性グループも「横断幕と一緒に写真を撮りたい」と一緒に写したり、「僕にはお母さんがいないから、皆さんをお母さんと思つて、叫んでいいですか。お母さん、僕、今日、成人式を迎えました」と声を出して報告する新成人もいたりして、会場入り口は大変な盛り上がりでした。シール投票の結果は総数87名中(1)学費43名、(2)子育て支援20名、(3)賃上げと消費税19名、(4)軍事費5名という結果で、新成人との交流もでき、この春行われる大阪府知事選挙・大阪市長選挙への希望をたくさんもらいました。寄稿—天王寺平和委員会 吉田一江

6・9行動署名46筆

大阪原水協は1月6日(金)12時から上本町六丁目の交差点で、今年初の核兵器の廃絶をめざす6・9行動を行いました。

参加者は26名元気のよい行動となったため、「日本政府に核兵器禁止条約に署名・批准を求める署名」が46筆集まりました。又、コンピュータ



ター学校の学生さんが辺野古の天王寺平和委員会からは13名が参加しました。

以下は参加者の感想です。「若い人たちの関心が強く、署名もたくさんしてくれました。ロシアのプーチン大統領のウクライナ侵攻と核兵器使用の威嚇をストップさせたいという願いのこもった署名行動でした」

沖縄連帯行動に若者反応

—「沖縄も日本もえらいこっちゃ」と次々と署名してくれる—

1月13日(金)毎月の沖縄連帯行動を、上本町6丁目交差点で行いました。

岸田政権の国民無視の急ピッチな軍事化・戦争する国づくりの動きに市民はどう受け止めているのかが気になりながら、オスプレイと辺野古の海のパネルを展示し、16名で開始しました。遺族会と天王寺平和委員会の代表がスピーチし、うたごえの二人がギターで沖縄の歌を演奏して通行人に沖縄の現状を訴えました。今回のチラシは日本平和委員会からのチラシ2種類A3に印刷して配布しまし



た。戦争への動きを気にして、行く人々がチラシを受け取り読んだ。パネルを真剣に見ていて沖縄の現状をもっと知りたいと話していました。多くの人が「沖縄も日本もえらいこっちゃ。」と危機感を持って署名をしてくれ24筆が集まりました。

【2月の行事案内】

- 1日(水) 常任理事会 18:00
- 5日(日) 旭区総会 10:00~ 旭区民センター集会室1
- 6日(月) 6・9行動 12:00~
- 9日(木) 「9の日」宣伝 17:00 淀屋橋
- 12日(日) 軍拡・改憲よりくらし平和関西集会 14:00 中之島中央公会堂
- 15日(水) 沖縄連帯行動 12:00 上本町交差点
- 18日(土) 天王寺平和委員会総会 13:30~ たかつガーデン・ローズ
- 22日(水) 大阪安保23行動 12:00 淀屋橋
- 24日(金) 在大阪ロシア領事館への抗議 (時間・場所未定)